

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和3年4月1日改正
(令和3年4月1日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：常磐保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：廣瀬 治 良	定員（利用人数）： 1 5 0 名
所在地：岐阜市上土居 8 1 4 -1	
TEL：0 5 8 - 2 3 2 - 8 6 9 5	ホームページ： https://chubufukushikai.jp//tokiwahoikuen/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成14年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：中部学院福祉会	
職員数	常勤職員： 1 6 名 非常勤職員 2 1 名
専門職員	（専門職の名称） 名
	園長 1 名
	主任保育士 1 名
	事務主幹 1 名 事務員 2 名
	保育士 1 1 名 保育士 1 6 名
	栄養士 1 名
	調理員 1 名 調理員 3 名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
	保育室 6 室 遊戯室 1 室 給食室 職員室 トイレ 3

③理念・基本方針（※転載）

保育理念

「笑顔いっぱい 学びいっぱいの保育園」

基本方針

- ①子どもが安心して、笑顔で生活できる保育園
 - ・一人ひとりの子どもの健康及び安全の確保に努める。
 - ・子どもにとって望ましい保育の環境づくりに努める。
 - ・一人ひとりの子どもへの適切な関わりに努める。
- ②子どもの関心・意欲を大切にし、確かな力をつける保育園
 - ・保育内容の質を高め、指導の工夫を図る。
 - ・子どもの基本的な生活習慣の定着を図る。

- ・職員の資質の向上・専門性の向上を図る。
- ③家庭・地域等との連携に力を入れる保育園
 - ・子ども・園の様子の積極的な情報発信に努める。
 - ・家庭との連携・協働による子育てに努める。
 - ・地域や大学、小学校等との連携に努める。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・0～5歳児までの6年間で、人生100年を心豊かに、たくましく生きるための基礎づくりをするために、5つの力（①基礎的な生活習慣を身につける。②思い切り遊び ③友達と楽しく生活する。④自分の思いを表現する。⑤どんなことにも挑戦する。）が身につくように努めている。
- ・大学、短期大学の系列園として、大学等との連携を深めながら、より良い保育を求めて支援している。大学の教員等による音楽、運動指導にも力を入れ、保育士志望の学生も多数来園し、共に成長できる園として支援している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 3 年 7 月 1 5 日（契約日） ～ 令和 4 年 2 月 1 0 日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	3 回（平成 2 8 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

当園は、先駆的に市の保育所民営化に取り組み、パイオニア的存在として、様々な困難を果敢に克服してきた。また、保育士養成課程を有する大学・短大の系列園としてのブランディング戦略を活かし、そしてブランドに恥じない保育を実践してきた経緯がある。まさしく、出藍の誉れのとえのごとく、独自の園運営を展開してきた。調査時にもその精神が脈々と受け継がれていることを感じ取れた。

園舎が立地する地域には、公園が多くあり、緑も多い。また、散歩コースには農道や小川があり、自然に恵まれた環境である。さらに、地域には小学校、農協、警察署、老人ホーム等の社会資源が点在する。その自然の恩恵や社会資源を保育に活用し、様々な園外活動や社会体験を通して子どもたちの好奇心や社会性を育てている。建物の古さは否めないが、その古き良さを引き出しつつも、給食室や遊戯室の充実化等、新たな設備整備や修繕を重ね、快適さを向上させてきた。保育室も安全に留意し、牛乳パックを利用した手作りコーナーを設置し、清潔かつ整理整頓がされている。

園の理念として「笑顔いっぱい、学びいっぱいの保育園」をめざすことを高らかに掲げ、子どもの強みや潜在能力を引き出し、これからの生きる力を養う保育に取り組んでいる。また、子どものエンパワメントを高める観点から、職員ワンチームとなって、子どもの主体性を育むべく、

子ども一人ひとりの発達に応じた保育を丁寧実践している。園を訪れた際に、職員のあいさつの礼儀正しさや子どもたちの活き活きとした活動の様子がとても印象的であった。その元気いっぱいの子どもたちが昼食時に静かに黙食している様子にまた感心させられた。

系列校の保育士養成課程を有する大学・短大と連携しつつ、外部講師を招いて、英語あそび、音楽あそび、運動あそび等の特色あるプログラムを用意している。また、保護者支援計画を策定しており、保護者の多様なニーズに応えている。例えば、保育時間を午後８時まで延長保育を実施している。また、午後６時の軽食では、自園給食を活かし、おやつや軽食など手作りの食事が提供されている。

また、基本方針の中に「家庭・地域等との連携に力を入れる保育園」とあるように、現在は、コロナ禍の影響で制限的にならざるを得ない状況にあるが、地域の関係団体・機関との連携や地域の老人会、老人施設との交流活動、地域交流活動に力を入れるとともに、ニーズオリエンテッドな観点から、子育て相談、園庭開放、図書の貸し出し、授乳コーナー、子育て事業としての赤ちゃんステーション事業、ハッピーパパママ保育所体験事業、児童センターでのふれあい、ぴよぴよクラブとの交流等を通じて、地域の子育てニーズに積極的に対応している。

職員の人材確保については、この業界の共通の課題であるが、系列校との連携をはじめ、あらゆるチャンネルを活用した求人活動を行うとともに、ワーク・ライフバランスに配慮した処遇や職員教育体制の充実化により、職員の定着化に資するものとなり、さらには、職員エンゲージメントを高めるものとなっている。また、保育マニュアルその他各種マニュアルが整備されており、職員の保育の質の標準化とともに、コンプライアンス意識の向上につながり、ひいては園組織のガバナンス向上につながっている。

◇改善を求められる点

現在、業務のＩＣＴ化の導入を予定している。このことは経営の効率化や事務の簡素化が可能になるとともに保育実践の時間の確保につながると考えるので、今後とも、さらなるＩＣＴ化の推進に向けた取り組みに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

平成２３・２８年度に引き続いて３度目の第三者評価を受けること通して、本園の運営・保育の在り方を振り返る節目として職員全体で取り組んできました。今後も、この評価を活かしながら、保育士養成課程を有する大学・短大の系列園として、園の理念や保育目標の具現を目指した質の高い保育実践に心がけ、保護者や地域からさらに信頼される保育園づくりに全職員が一丸となって取り組んでいきたいとの決意を新たにすることができました。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。